青い森のサイバーセキュリティ

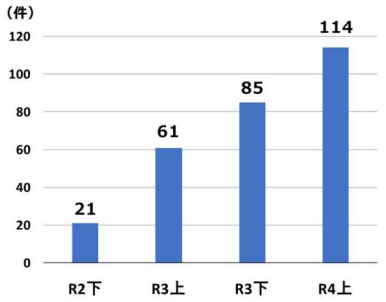
令和４年11月
青森県警察本部
サイバー犯罪対策課

令和４年上半期のサイバー空間の脅威情勢

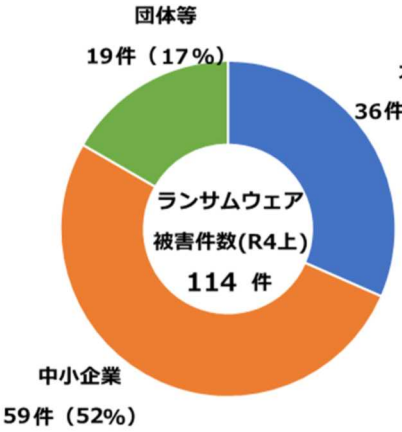
◎ランサムウェアの脅威が依然として継続

警察庁に報告された国内におけるランサムウェアによる被害件数は右肩上がりで増加を続け、令和４年上半期中は114件に及びました。

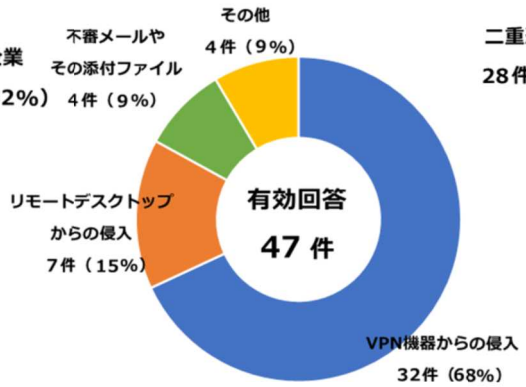
被害は規模や業種を問わず、サプライチェーンの中のセキュリティの脆弱な部分が狙われており、サプライチェーン全体が影響を受ける事案が見られています。



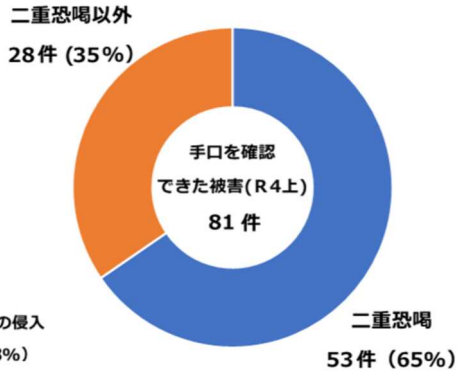
【企業･団体等におけるランサムウェア被害の報告件数の推移】



【ランサムウェア被害の被害企業･団体等の規模別報告件数】



【感染経路】



【ランサムウェア被害の手口別報告件数】

◎支払いは暗号資産、手口は二重恐喝が主流に

情報を暗号化し、復号対価としての金銭を要求する以外に、情報を外部に盗み出したうえで「対価を支払わなければ盗んだデータを公開する」などとして金銭を要求する手口「二重恐喝（ダブルエクストーション）」が過半数を占めています。

盗み出した情報は、ダークウェブ上の「リークサイト」に掲載されることが多く、実際に日本国内の事業者等の情報の掲載が確認されています。

【ダークウェブ上のリークサイト例】

出典:警察庁,“令和4年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について,
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/